

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日		校 長 名		所 在 地	
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番1他 (電話) 042-637-3111	
設 置 者 名		設立認可年月日		代 表 者 名		所 在 地	
学校法人 片柳学園		昭和25年3月1日		片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111	
目 的	企業等との密接な連携により、最新の実務の知識、技術、技能等を身に付けることで、より実践的な職業教育の質を確保する。						
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与	
医療	医療専門課程	柔道整復科	3年 (昼)	2,715単位時間 (又は単位)	平成17年文部科学 大臣告示第30号	—	
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技	
		1995単位時間 (又は132単位)	—単位時間 (又は単位)	—単位時間 (又は単位)	720単位時間 (又は23単位)	—単位時間 (又は単位)	
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数	
180人		133人		6人		29人	
学期制度		■前学期：4月1日～9月30日 ■後学期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 成績評価の方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定	

長期休み	■学年始め ：4月1日 ■夏 季 ：7月21日～8月31日 ■冬 季 ：12月23日～翌年1月8日 ■春 季 ：3月18日～3月31日 ■学 年 末 ：3月31日	卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること
生徒指導	■クラス担任制（有）・無） ■長期欠席者への指導等の対応 当月中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。	課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動（有）・無）
就職等の状況	■主な就職先、業界等 高山整形外科 (有)中部メディカル (有)T L S イルカ整骨院 ■就職率※¹ 81.8% ■卒業者に占める就職者の割合※² 80.0% ■その他（任意） （平成25年度卒業者に関する平成26年4月時点の情報）	主な資格・検定	柔道整復士
中途退学の現状	■中途退学者 10名 ■中退率 6.5% 平成25年4月1日在学者 153名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者 134名（平成26年3月卒業生を含む）休学者9名を除く ■中途退学の主な理由 進路変更・就職、経済的理由、病気療養・怪我治療 ■中退防止のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。		
ホームページ	URL： http://www.neec.ac.jp/		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

厚生労働省による柔道整復師養成施設基準に準拠しより良い医療人を輩出できるような授業の実施を心がける。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 26 年 9 月 22 日現在

名 前	所 属	任期
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校	平成27年3月31日
山野 大星	日本工学院八王子専門学校	平成27年3月31日
沢川 達也	日本工学院八王子専門学校	平成27年3月31日
九原 慎介	一般社団法人 日本姿勢教育協会	平成27年3月31日
藤田 明	(有)フジタグループ	平成27年3月31日

(開催日時)

第1回 平成 26 年 8 月 27 日 10:00～10:30 10:45～11:15

第2回 平成 27 年 3 月 27 日 10:00～10:30 10:45～11:15

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

柔道整復師養成施設基準に準拠する。臨床現場で実務を行っている先生を招聘する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
包帯 1. 2	柔道整復師に必要な包帯の巻き方について学ぶ	散田名倉堂接骨院
触診実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	松山鍼灸院
画像観察実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	松山鍼灸院

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、最新の技術力と技能、人間力を修得する。

新たな技術の研究や理解等は教員においては必須のスキルとなっている。また、社会に出た後は、技術だけでなく人間としての成長を求める企業は多いため、学生に技術に加え、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけてもらうための教員研修の実施・継続が不可欠と位置づける。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 26 年 9 月 22 日現在

名 前	所 属	任期
金子 英明	セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー	平成27年3月31日
細谷 幸雄	八王子商工会議所 事務局長	平成27年3月31日
森 健介	白梅学園高等学校 副校長	平成27年3月31日
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成27年3月31日
古木 勝紀	株式会社バンパー 取締役	平成27年3月31日
石川 仁嗣	医療法人社団健心会みなみ野ハートクリニック 事務長	平成27年3月31日
杉山 一夫	株式会社リンキディンク 代表取締役	平成27年3月31日
松浦 弦三郎	松浦技術士事務所 代表	平成27年3月31日

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: http://www.nhac.ac.jp/news/131129/nhac_report.pdf

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: http://www.nhac.ac.jp/news/131129/nhac_report.pdf

授業科目等の概要

(医療専門課程 柔道整復科) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・実 習・実 技
○			栄養学 1	生涯を通じた健康的な食生活の送り方や生活習慣病予防のための栄養摂取について学びます。	1 前	15	1	○		
○			栄養学 2	生涯を通じた健康的な食生活の送り方や生活習慣病予防のための栄養摂取について学びます。	1 後	15	1	○		
○			経営管理 1	経営管理に必要な税務の基礎を学びます。	1 前	15	1	○		
○			経営管理 2	経営管理に必要な税務の基礎を学びます。	1 後	15	1	○		
○			手話 1	日本手話実技とろう文化を学びます。	1 前	30	2	○		
○			手話 2	日本手話実技とろう文化を学びます。	1 後	30	2	○		
○			スポーツ 1	各種スポーツから健康と運動の必要性について基礎的な分野を学びます。	1 前	30	1			○
○			スポーツ 2	各種スポーツから健康と運動の必要性について基礎的な分野を学びます。	1 後	30	1			○
○			解剖学 1	人体のしくみと成り立ちを学ぶ学問であり、疾病の原因またはその治療にあたる人には欠かすことのできない学問です。各器官を系統立てて学びます。	1 前	60	4	○		
○			解剖学 2	人体のしくみと成り立ちを学ぶ学問であり、疾病の原因またはその治療にあたる人には欠かすことのできない学問です。各器官を系統立てて学びます。	1 後	60	4	○		
○			生理学 1	人体の生命活動に必要な細胞等の役割を理解し人体の基礎的生理学を学びます。	1 前	30	2	○		
○			生理学 2	人体の生命活動に必要な細胞等の役割を理解し人体の基礎的生理学を学びます。	1 後	30	2	○		

○			病理学 1（総論）	疾病の成り立ちを学びます。	1 後	15	1	○		
○			医学史	主に予防医学の歩みについて学びます。	1 後	30	2	○		
○			医療関係法規	柔道整復師法とその他の医療関係法規について学びます。	1 後	30	2	○		
○			柔道 1	柔道を通じ礼法を学びまた基礎体力を養います。	1 前	30	1			○
○			柔道 2	柔道を通じ礼法を学びまた基礎体力を養います。	1 後	30	1			○
○			運動器・頭部	外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動器の基礎について学びます。	1 前	30	2	○		
○			運動器・体幹	外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動器の基礎について学びます。	1 前	30	2	○		
○			運動器・上肢	外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動器の基礎について学びます	1 前	30	2	○		
○			運動器・下肢	外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動器の基礎について学びます。	1 前	30	2	○		
○			施術総論	各外傷に対応する柔道整復術の基礎を学びます。	1 後	30	2	○		
○			骨折総論	各外傷に対応する柔道整復術の基礎を学びます。	1 後	30	2	○		
○			脱臼総論	各外傷に対応する柔道整復術の基礎を学びます。	1 後	30	2	○		
○			軟部組織損傷総論	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学びます。	1 後	30	2	○		
○			包帯 1	柔道整復師に必要な包帯の巻き方について学びます。	1 前	30	1			○
○			包帯 2	柔道整復師に必要な包帯の巻き方について学びます。	1 後	30	1			○
○			業務用語 1	業務上必要な各用語について学びます。	1 前	15	1	○		
○			業務用語 2	業務上必要な各用語について学びます。	1 後	15	1	○		

○			固定方法	患部を固定する様々な手段を学びます。	1 前	15	1	○		
○			施設見学 1	様々な施設を訪問し社会人として見分を広めます。	1 後	15	1	○		
○			ほねと筋肉 1	体の各部位について幼児や老人にも理解しやすく説明できる知識を学びます。	1 前	30	2	○		
○			ほねと筋肉 2	体の各部位について幼児や老人にも理解しやすく説明できる知識を学びます。	1 後	30	2	○		
○			生理学 3	人体の生理的活動を具体的に学び理解を深めます。	2 前	30	2	○		
○			生理学 4	人体の生理的活動を具体的に学び理解を深めます。	2 後	30	2	○		
○			解剖学 3	人体各器官の存在場所や特徴を学び解剖学を統括します。	2 前	30	2	○		
○			解剖学 4	人体各器官の存在場所や特徴を学び解剖学を統括します。	2 後	30	2	○		
○			病理学 2 (概論)	炎症や腫瘍等の基礎知識を学びます。	2 前	30	2	○		
○			病理学 3 (概論)	炎症や腫瘍等の基礎知識を学びます。	2 後	30	2	○		
○			公衆衛生学 1	健康に生活する上で必要な知識と情報を学びます。	2 前	30	2	○		
○			公衆衛生学 2	健康に生活する上で必要な知識と情報を学びます。	2 後	30	2	○		
○			柔道 3	投げ技、抑え技について形を中心に学びます。	2 前	30	1			○
○			柔道 4	投げ技、抑え技について形を中心に学びます。	2 後	30	1			○
○			骨折理論 (上肢)	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学びます。	2 前	30	2	○		
○			骨折理論 (下肢)	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学びます。	2 後	30	2	○		
○			脱臼理論 (上肢)	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学びます。	2 前	30	2	○		

○		軟部組織損傷各論	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学びます。	2 後	30	2	○		
○		物理療法理論	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学びます。	2 前	30	2	○		
○		後療法理論	部位別に具体的な外傷の成り立ちや治療方法を学びます。	2 後	30	2	○		
○		施術概論 1	健康に生活する上で必要な知識と情報を学びます。	2 前	30	2	○		
○		施術概論 2	生活環境について学び、保健衛生行政機関の仕組みを理解します。	2 後	30	2	○		
○		骨折実技（上肢 1）	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 後	30	1			○
○		骨折実技（下肢 1）	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 前	30	1			○
○		脱臼実技（上肢）	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 後	30	1			○
○		軟部組織損傷実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 前	30	1			○
○		触診実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 前	30	1			○
○		物理療法実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 後	30	1			○
○		画像観察実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 後	30	1			○
○		後療法実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 前	30	1			○
○		施設見学 2	様々な施設を訪問し社会人として見分を広めます。	2 後	15	1	○		
○		ケガの手当 1	軽症の応急手当についての知識を学びます。	2 前	30	2	○		
○		ケガの手当 2	軽症の応急手当についての知識を学びます。	2 後	30	2	○		
○		運動処方 1	健康と運動の必要性について応用的な分野を学びます。	2 前	30	2	○		

○			運動処方2	健康と運動の必要性について応用的な分野を学びます。	2 後	30	2	○		
○			からだのしくみ1	体の働きについての概要を学びます。	3 前	30	2	○		
○			からだのしくみ2	体の働きについての概要を学びます。	3 後	30	2	○		
○			生理学5	生理学を統括し理解を深めます。	3 前	30	2	○		
○			生理学6	生理学を統括し理解を深めます。	3 後	30	2	○		
○			運動学1	基礎力学や身体の動きや歩行のメカニズムを学びます。	3 前	30	2	○		
○			運動学2	基礎力学や身体の動きや歩行のメカニズムを学びます。	3 後	30	2	○		
○			病理学4（各論）	各疾病の特徴を学びます。	3 前	15	1	○		
○			整形外科学1	整形外科治療の基礎知識や代表的治療方法を学びます。	3 前	30	2	○		
○			整形外科学2	整形外科治療の基礎知識や代表的治療方法を学びます。	3 後	30	2	○		
○			外科学概論1	外科的治療の基礎と具体的方法を学びます。	3 前	30	2	○		
○			外科学概論2	外科的治療の基礎と具体的方法を学びます。	3 後	30	2	○		
○			公衆衛生学3	生活環境について学び、保健衛生行政機関の仕組みを理解します。	3 前	30	2	○		
○			公衆衛生学4	生活環境について学び、保健衛生行政機関の仕組みを理解します。	3 後	15	1	○		
○			柔道5	柔道整復師として必要な柔道の技術・知識を習得します。	3 前	30	1			○
○			柔道6	柔道整復師として必要な柔道の技術・知識を習得します。	3 後	15	0	○		
○			施術概論3	部位別に具体的な外傷の成り立ちや治療方法を学びます。	3 前	30	2	○		

○			施術概論 4	部位別に具体的な外傷の成り立ちや治療方法を学びます。	3 後	30	2	○		
○			テーピング固定法	部位別に具体的な固定方法を学びます。	3 後	15	1	○		
○			骨折整復学（上肢）	上肢の骨折を統括します。	3 後	15	1	○		
○			骨折整復学（下肢）	下肢の骨折を統括します。	3 後	15	1	○		
○			脱臼整復学（上肢）	上肢の脱臼を統括します。	3 後	15	1	○		
○			脱臼整復学（下肢）	下肢の脱臼を統括します。	3 後	15	1	○		
○			機能訓練 1	機能訓練指導員として必要な知識を学びます。	3 前	30	2	○		
○			機能訓練 2	機能訓練指導員として必要な知識を学びます。	3 後	30	2	○		
○			骨折実技（上肢 2）	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療に至るまでの注意事項を学びます。	3 前	30	1			○
○			骨折実技（下肢 2）	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療に至るまでの注意事項を学びます。	3 前	30	1			○
○			脱臼実技（下肢）	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療に至るまでの注意事項を学びます。	3 前	30	1			○
○			徒手検査法実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療に至るまでの注意事項を学びます。	3 前	30	1			○
○			ギプス固定実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療に至るまでの注意事項を学びます。	3 前	30	1			○
○			臨床演習・実習	指導柔道整復師のもとで、接骨院における施術の流れを実習します。	3 前	45	1			○
○			施設見学 3	様々な施設を訪問し社会人として見分を広めます。	3 前	15	1	○		
○			施設見学 4	様々な施設を訪問し社会人として見分を広めます。	3 後	15	1	○		
○			特別ゼミ	柔道整復師国家試験合格のための特別講義を実施します。	3 後	60	4	○		
合計				97 科目	2715 時間(156 単位)					

